



サポーターといっしょに注文の品を届ける

障害を持つ人たちの受け皿として

この分場の開設は、多くの人の要望により実現しました。日野郡障害児(者)支援ネット「ひまわりの会」の世話人でもあり、日野分場のサポーターでもある川上由紀美さんは「知的障害を持つ子どもたちが、自宅から通えるということ、本人や親にとって、とてもうれしいことです。地域に受け皿(働く場所)があるということは、障害を持つ子どもたちにとって将来の目標や希望にもなります。この作業所が開設されることが夢でした。今後に期待しています」と障害も持つ親の気持ちをお切実に話していました。



分からないことは、サポーターがしっかり支援

利用者も

自分自身に変化

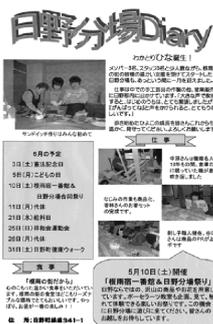
日野分場に通う利用者は「近くに分場が出来て、通うのが楽になりました」と開設を喜んでいました。仕事を通して「自分が作ったものが売れる」と実感わき、自分に自信が持てるようになりました。やりがいがあります」と毎日が生きていけると話しています。

また、分場のことについても「この分場はとてまなごやかな雰囲気です。積極的にいろいろなことに挑戦していきたくです」もっと地域に出かけて分場を紹介していきたくです」などと抱負を笑顔で話してくれました。

作業所の生活を通して「前の自分より明るくなった」と自分自身の変化も打ち明けてくれました。

まずは情報発信を

4月10日に開設され、一か月が過ぎました。ほかの町にある分場より人通りも多く、交通の便も良い場所にあるのに、仕事内容など知られていないことがたくさんあり、いかに情報発信していくかが課題になっていきます。地域の人々が気軽に寄っていただけよう、仕事の内容や作業風景、催しを紹介した「日野分場Diary」を毎月発行し、注文先などに配っています。



チラシを配り情報発信



笑顔で手渡し、積極的に地域へ



サポーター
主任 東千春さん

この分場は、施設ではなく「働く場所」として、利用者が気軽に通える温かい場所にしていきたいです。地域の皆さんが気軽に来ただけの分場を目指し、積極的に情報の発信や地域の催しに参加していきたいです。今後は、お客さんの要望に応えられるような商品が作れるよう販売にも力を入れていきたいです。

気軽に来てください 見学は自由です

日野分場の開所時間は、午前8時30分から午後5時30分で、興味のある方は、自由に